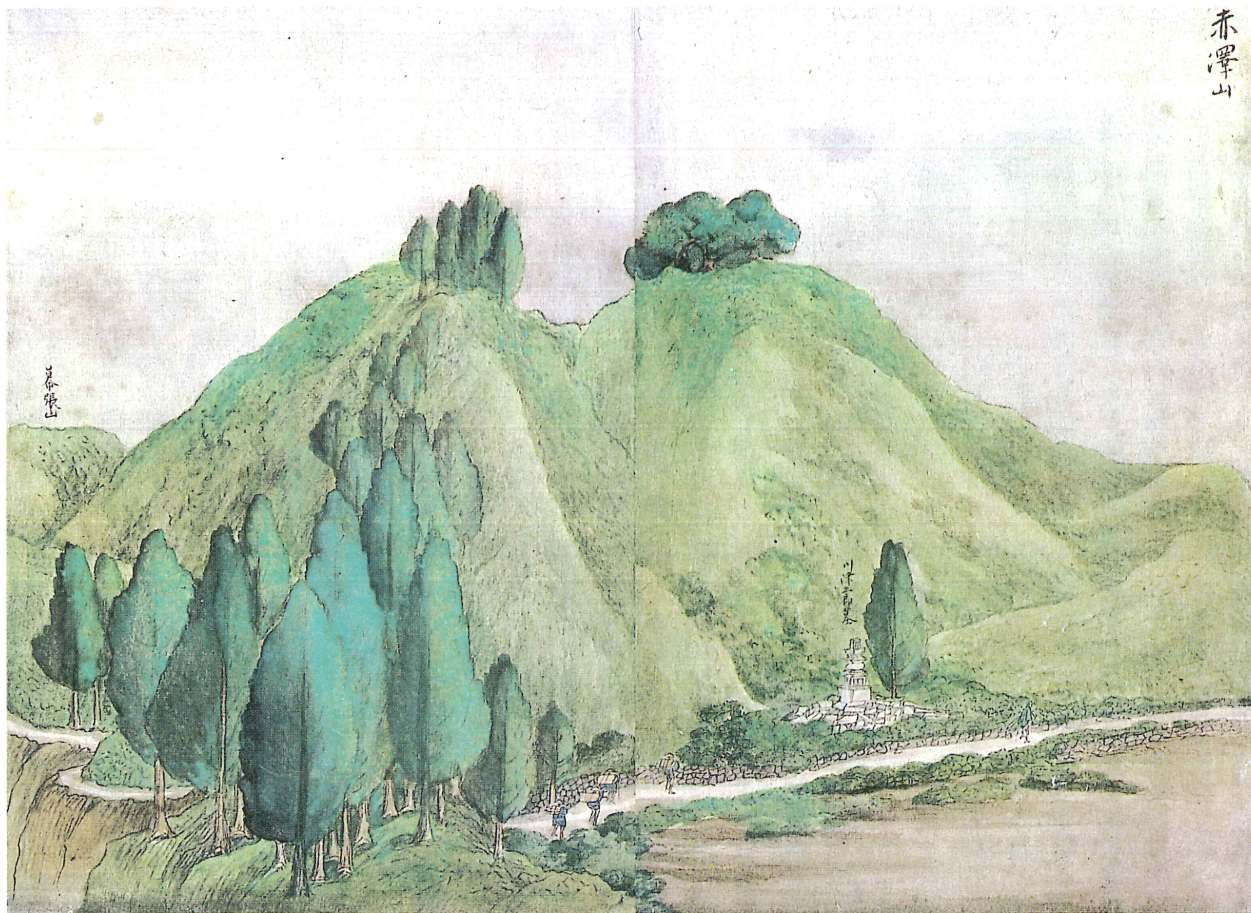


伊東市史だより

第1号

平成12年3月1日



赤沢山

谷文晁筆『公余探勝図』から「赤沢山」 東京国立博物館蔵・重要文化財

谷文晁の「赤沢山」の図

―解説に代えて―

江戸時代の庶民にも武士にも、たいへんもてはやされた曾我物語。その物語の発端の地として、「赤沢山の麓」は、知らぬ人のない名所であった。

江戸時代の絵草紙や錦絵には、赤沢山の麓「椎の木三本」の場面を描いたものは多い。しかし、それらの多くは、芝居や物語の場面をもとにした想像による図であろう。

この谷文晁の図は、実際の旅の途上で、画家の目を通して見た赤沢山（伊雄山）とその山麓の模様を描いたものである。

画家谷文晁は、松平定信の伊豆巡見の供に加わり、公余探勝図八十図を描いた。寛政改革で歴史上にも名高い老中松平定信は、海岸防備の視察のために伊豆をまわる途中、寛政五年（一七九三）三月二十九日の朝、片瀬を出発して、八幡野で昼食、この日は宇佐美へ泊まった。

名高い赤沢山の麓で、松平定信一行も足をとどめたのであろう。図には血塚も見える。

伊東市史編さんに向けて



伊東市史編さん委員会委員長
伊東市長 鈴木藤一郎

私たちの住む伊東は「西に山、東に海、美しいかな、この岡、われらが里。・・・」（伊東市立西小学校校歌）と郷土の生んだ偉人木下空太郎によってうたわれています。この歌のとおり、本市は豊かな自然環境に恵まれ、国内有数の観光地として発展してまいりました。

昭和三十三年に市制施行十周年を記念し、原始古代以来の伊東市の歴史をまとめた『伊東市史』を刊行いたしました。しかしながら、発行以来四十数年の歳月を経て、その間に新たな資料の発見等が続き改訂の必要が感じられる状況となつて参りました。

一方、市民生活の変化にも目を見張るものがあり、かつての伊東

の姿や歴史的資料の多くが失われつつあります。

こうした状況を踏まえ本市では新たな市史編さん事業に着手することといたしました。幸い、網野善彦先生をはじめ多くの歴史学の第一線を歩む先生方の多大な御協力により、充実した体制が整うこととなりました。

来る平成十九年には、市制施行六十周年という節目の年を迎えることとなります。この間にも多くの変化を経験して参りました。当然、本市の歴史は、この間だけのものではなく原始古代から引き続く数多くの変遷を経て参りました。こうした歴史の姿を正しく理解し、明日の伊東を考える姿勢は是非必要なことと思われまふ。

編さん事業に係わる先生方の御指導のもと、先人の築いた歴史を明らかにして参りたいと思います。本市には、まだまだ眠ったままの資料がたくさんあるものと思ひます。市民の皆様はこの伊東の歴史を再確認していただく機会として御理解を賜り、御協力のほどよろしくお願いいたします。

新しい伊東市史の編さん



網野 善彦
編集委員長
(元神奈川大学教授)

二十一世紀を迎えようとしている現代社会は未曾有の転換期にさしかかりつつあります。これを誤りなく乗り切るために、歴史に対する深い理解に裏づけられた正確な自己認識が必要であることはいうまでもありません。それは、広く世界の人類社会に目を向けるとともに、われわれ自身の生活する地域に対する深い理解に基づくものでなくてはならないと思います。

こうした社会の動向の中で、伊東市が長年にわたって地元で蓄積されてきた研究成果を背景に、新たな市史編さん事業を開始したことは、まことに時宜に合った措置であり、全くの力不足であるにも拘らず、その編集者となったことに重い責任を感じています。

歴史学もまた転換期の動向を反映して大きく変化しつつあり、文献中心の政治史、経済史の枠を大

きく越えて、自然と人間の関係に目を注ぎつつ社会の歩みを多面的にとらえ、生活そのもののある方を深く追求するようになって参りました。そのために文献史学、考古学、民俗・民具学、建築・美術史学、さらに地学、動植物学等、自然科学の各分野の緊密な協力が不可欠の条件であり、市史編さんにもこのことをできるだけ配慮して、多彩なメンバーによって各委員会が構成されています。特に伊東市の場合、一方では海、他方では火山・温泉に目を向け、それらによる災害の歴史を明らかにするとともに、潜水、鰐釣をはじめとする多様な漁労や海上交通を通じての日本列島全体、それを越えた世界とのつながりに注目しつつ、さまざまな生業、生活の実態を解明したいものと思ひます。

また、宇佐美氏、伊東氏の動きや日蓮などの仏教の動向、江戸・東京との緊密な結びつき等に応じ、視野から光をあてる必要があります。編さんは長期にわたりますが市民の皆様御支持と御協力を心からお願ひいたします。

木曾川が真ん中を流れる小さな町。海とは小さい頃から海水浴での関わりでしかありませんし、研究も明治維新という近代の始まりの時期を対象にしてきたにすぎません。これまで縁のなかつた伊東の、しかも近現代の地域史全体をどのように描いていくのか、丁寧に資料を集めながら、ゆつくりと考えていくつもりです。

伊東市史だより

編集委員紹介



故 宮田 登
副編集委員長
(神奈川大学教授)
(平成12年2月10日御逝去)

【主な著書】『神の民俗誌』 岩波新書
『江戸の小さな神々』 青土社

海・山・温泉と魅力いっぱい伊東で市史編さんのお手伝いができることをありがたく思います。専門とする民俗学は、地域の新年寄りにお話しを伺いながら、いろいろな生活の姿や信仰のかたちなどを取材させていただくこととなります。静岡県内在住の女性を中心としたスタッフで皆様の家庭におじゃますることになります。よろしく願ひします。



坂詰 秀一
編集委員
(立正大学学長)

【主な著書】『歴史考古学の視角と実践』 雄山閣
『太平洋戦争と考古学』 吉川弘文館

伊東市には原始時代以降、豊富な考古学的資料が存在します。その資料は、物質的史料として伊東市の過去を物語っています。「原



山本 幸司
編集委員
(神奈川大学教授)

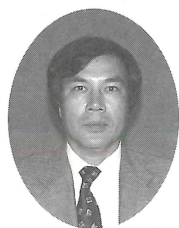
【主な著書】『天武の時代』朝日新聞社
『頼朝の精神史』 講談社

伊豆が古代・中世の日本社会で、どんな役割を果たしていたかは未解明の点が多い。それは基礎資料が不足しているからで、今回の市史では、文学作品・遺物・周辺地域の史料などの傍証で、それをどこまで捕らえるかが勝負です。これは私一人の手には余る難事業ですが、関係各位の応援で、その一部でも果たせればと願ひします。



山田 邦明
編集委員
(東京大学史料編纂所助教授)

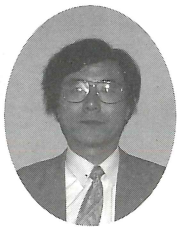
【主な著書】『鎌倉幕府と関東—中世の政治秩序と在地社会—』校倉書房



田上 繁
編集委員
(神奈川大学助教授)

【主な著書】『海と列島文化Ⅷ(共著)』小学館
『奥能登と時国家』共著 平凡社

近世史部会では、市史編さん事業の一環として歴史史料の悉皆調査を行います。貴重な文化遺産である史料を後世に伝えるとともに、その膨大な史料の中から山、平地、海といった変化に富む伊東市の固有の姿を描き出したいと思ひます。



羽賀 祥二
編集委員
(名古屋大学教授)

【主な著書】『明治維新と宗教』筑摩書房
『史蹟論』名古屋大学出版会

私の生まれば濃尾平野の北端、



笹本 正治
編集委員
(信州大学教授)

【主な著書】『鳴動する中世』朝日選書
『中世の災害予兆』吉川弘文館

観光伊東の魅力は温泉にしても海岸線にしても火山からの賜物と言えます。火山地帯では地震や津波や噴火といったマイナス点が強調されがちですが、観光地としての魅力は火山の危険性と引き換えにいただいているものです。

いたずらに災害を恐れるのではなく、過去の災害を正しく理解し、それに対処するための文化を探りたいものと思ひます。

編さん事業紹介

平成十一年度は、市史編さん事業第一歩の年でした。網野善彦先生による記念講演「海からみた伊東」は会場が満員となる盛況で、好評をいただきました。

市長や市議会からの代表も加わっていただいて、編さん事業の基本方針を話し合う会議をもち、その方針の元に各分野の専門家が地元で調査にうかがいました。

そうした調査のいくつかの例を紹介します。

江戸時代の古文書を調査

近世史と近代史を担当する部会では十足(小川家) 吉田(下田家)



近世部会の十足小川順作さん宅での資料調査

富戸(鈴木家)などで古文書調査

を実施しました。新たに見つかったものも多く、貴重な資料が多数みつかりました。今後、これらの資料は写真撮影して各地区の歴史を知る重要な資料として役立てられます。

各地区のお祭りを調査



民俗部会の川奈の祭礼調査

民俗部会では、各地区の祭礼を調査しました。今後、この部会では漁仕事のような地域・石仏の姿を記録することが予定されています。生活や仕事の姿を記録することとなるため、市民の皆様のご家庭や仕事場に直接おじゃますることになります。御協力をお願いします。

古い民家や寺社の建造物を調査

建造物の調査では、二月四・五日の両日、川奈の三嶋神社を拝観

し、神社に伝わる棟札や絵馬の調査にうかがいました。

明治大正期の資料整理

事務局では、これまでに収集した古文書や明治大正期の各地区の書類などを整理したり、市民から寄せられた古写真の複写作業や民具の台帳整理を実施しています。

伊東の地形を考える

自然災害史を担当する部会では伊東市内だけでも数十箇所もあるという東伊豆単成火山群を巡回し、伊東の地形の基本的な成り立ちを観察する基礎調査を実施しました。この部会では、伊東で過去におこった津波・豪雨・地震・山崩れなどの災害をひとつずつ丹念に追跡して記録していきます。

災害体験記を募集!

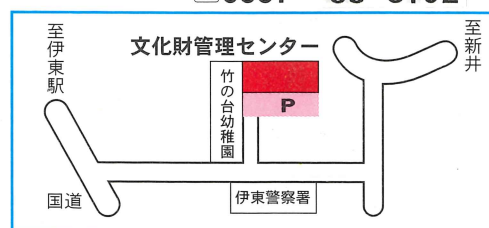
伊東は、群発地震・海底噴火・狩野川台風・大火など多くの災害を体験してきました。そうした貴重な体験を風化させないように、後世に伝えたいと思います。そこで、市民の災害体験記を広く募集します。台風被害で、どの地点までもどのような被害があったものか、

生死を分けたものは何かなど皆様の生の体験談を募集しています。詳しくは事務局まで御連絡をお願いします。

新年度には、本年に引き続き各部会の調査活動を続けて参ります。また、講演会や市史講座など市民が学ぶ機会も用意しています。皆様の御協力をお願いします。

災害体験記や歴史情報の問合せは

文化財管理センター内 市史編さん室へ
☎414-0026 伊東市竹の台3-11
☎0557-32-3288
FAX 0557-38-3192



編集発行

伊東市教育委員会生涯学習課
市史編さん係
〒414-8555 伊東市大原二丁目一番二号
☎0557-36-0111
内線二八四五